
IS ~ ある平凡な女生徒の話 ~

和井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS〈ある平凡な女生徒の話〉

【Nコード】

N3493BA

【作者名】

和井

【あらすじ】

原作でもアニメでも限りなく影の薄かった1年3組に入学した女オリ主（転生者にあらず）から見た騒動の数々を書いて行こうと思います。

作者は原作は臨海学校のあたりまでしか読んでいません。アンチオリキャラ、原作ブレイクになるかと思われます。初心者が書く文なので、広い心で読んでくれると嬉しいです。

入学式（前書き）

入学式

その日私は、これまでの15年の人生において最も緊張する日を迎えていた。

たかが高校の入学式と言うなかれ。

私は何の神様の悪戯か天下のIS学園への入学を果たしたのである。

合格通知が届いた日の騒動はそれはもう凄いものだった。学校の皆が騒ぐのは勿論、地元のテレビや新聞社からもインタビューが来たほどだ。(うちが如何に田舎かが良く分かるエピソードである)まさか「人生の記念に受験したら受かりました」なんて言えるわけがない。しどろもどろに返事をしているうちに、IS学園入学を目指して日々努力を続けた少女のサクセスストーリーが紙面を飾っていた。我ながら、これ誰?とってしまった。

親元を離れるどころか、県外に出たのは修学旅行の時と受験の時だけという私が全寮制のIS学園に入学するにあたっては、両親はそれはもう心配して、入寮の手続きには会社を休んで同伴したぐら이다。高校生になるのに親同伴は恥ずかしかつたけど、ちょっと安心したのは私だけの秘密だ。それに、私以外にも保護者同伴でやってきていた子は結構いたので、もし一人で来ていたら尻込みして逃げ帰っていたかもしれない。

入学式には保護者は参列できないので、両親は数日近隣のホテルに滞在しながら日用品を揃えてくれると、くれぐれも日本の恥にな

らない様に、と大仰な言葉を残して帰っていった。その頃には私も寮で仲良く喋れる相手が数人出来ていたので、ホームシックも心配していた程ひどくなくてすんだ。なにしろ新入生の半数近くは留学生なのだ。母国を離れている彼女達の前で弱音を吐いている場合じゃないし。

それにしても凄い年に入学できたな、と思う。世界初の男性のIS適正者と同年なのだ。テレビで大騒ぎになったころは受験シーズンは終わりがけていたし、まさか彼が同学年になるとは思ってたなかった。色々研究所とかで検査されるのになって思ってたけど、日本政府としては彼をとにかく早く安全な環境に置きたかったらしい。その点、超法規的存在であるIS学園がうってつけだったということなのだろう。

ただ、事前に発表されていたクラス分けでは彼は1組、私は3組2クラス合同の実技演習でも一緒になれないのが残念だ。でも、寮で仲良くなった子に1組の子もいたので、彼女から色々話は聞けるだろう。

とにかく父さんや母さんの期待に応える為にも、そして自分の将来の為にも頑張ろうと思った。

初日1（前書き）

会話文の挿入の仕方が下手ですみません。

初日 1

入学式の後には各自教室に戻って、担任の挨拶やクラス皆の自己紹介があった。こういうところは普通の女子高みたいだな、と思う。ただ、クラスメイトの名前を覚えるのは大変そうだったけど。それにしても皆日本語が上手なのは凄い。

途中、余所のクラスから凄い声が響いてきて驚いたけど、担任の先生は全然動じていない。流石だ。なんでも毎年の事らしい。声の方角からして1組のようだったから、大方男子生徒の挨拶があったのかとも思っていたけど、1組のクラス担任があのでブリュンヒルデなのだそう。納得。

女子の情報収集能力侮るべからず。1組は担任がブリュンヒルデなうえに、唯一の男子生徒とイギリスの代表候補生がいるのだそう。確定情報では無いけれど、あの篠ノ乃博士の関係者もいるらしい。なんていうか派手なクラスというのが私の第一印象だ。他は4組に日本の代表候補生がいるくらいらしい。4組とは合同演習があるので、彼女の実技が見れるのが楽しみだ。

それにしても流石はエリート養成校といわれるだけのことはあるのか、入学式のその日から早速座学が始まった。自分も結構得意だと思っていたけど、さすがにこの学校に来ると、自分なんかまだまだだと思いきらされる。卒業するまで結構ハードなことになりそうだ。とはいえ、自分の意志で入学したんだから精進あるのみ。

へとへとになって寮に帰ると、早速仲良くなった子のところへ顔

を出してみた。勉強だつて大事なんだけど、女同士の付き合いも大事なのだ。下手な噂がたとうものなら暗黒の学生生活が待っている。話題の中心になるのは当然1組の子だ。貴重な情報源である彼女の前には、皆からの捧げものが山になっている。とはいえ、結局皆で分けて食べるんだけど。

彼女の話だと、かの有名な男子生徒の名は織斑一夏。結構なイケメンらしい。もっともこんなことはニュースでいやって言うほど知っていたので、皆の視線の圧力が先を促す。

そして彼は、かのブリュンヒルデの弟なのだそうだ。日本人の子は名字である程度予想がついていたのかそれ程の驚きは無い。留学生組はメモをとるほどの熱心さだ。知識の吸収に貪欲なんだろう。

最初は、彼の外見がキュートだのなんだのと盛り上がっていたんだけど。彼が参考書を古い電話帳と間違つて捨ててしまったという話になった時、ちょっと沈黙があった。なにしろ皆、この学校に入学するまでそれこそ血のにじむような努力をし、参考書だつてすりきれるほど読んで此処に来たのだ。信じられなかったんだろう。私だつて受験自体は人生の記念としてだつたけど、それはあまりの競争倍率で受かるとは思えなかったからで、勉強は人並以上はしたのだ。合格が決まってからは送られてきた参考書を寝る間も惜しんで読みこんだ。

「彼、急に入学が決まってバタバタしてたんでしょ。しょうがないんじゃない？」

「でもあんなに分厚いのには」

「誰にでも失敗はあるって」

「そんなもんかな」

流石に最初はひいちゃった皆も、彼にIS適正有りと判明した日から入学までの短さを思えば、結構同情的な流れになってきた。自

分も親元を離れるにあたっては結構ばたばたしていたし。彼には両親はいないそうだから全部自分で準備したんだろう。親に色々やつてもらった自分が文句をいえることではないだろう。

そして、話がクラス代表決定の事になった時。完全に場が凍った。話していた子の表情も目に見えて引きつっていた。気立てのよさそうな、おっとりした感じの子なんだけど、くつきりと青筋が浮いてる気がする。ギャップが激しすぎて怖い。でも、彼女の口からイギリス代表候補生の話が出た時。きつと他の皆の顔も同じような感じになっていたと思う。彼女と同じイギリス出身の子は可哀相な位蒼褪めて、今にも失神してしまいそうだ。さすがに皆すぐには信じ難かったのか、他にも同じように駄弁っていた子たちと話をしてみると、そのイギリス代表候補生セシリア・オルコットが吐いた暴言はあからさまに日本を侮辱していた。彼女は気付いていないのだろうか？彼女は織斑君に対してだけ言ったつもりなんだろうけど、その言葉は学校の半分近くの人間への暴言になるのだということ。ただの一生徒ならまだしも、代表候補生が言った言葉だ。重みはまるつきり違う。それに、もともと彼女の評判は良くなかった。彼女は自室の半分以上を自分の家具で埋めていて、ルームメイトは隅っこで小さくなっている。協調性のかけらもない。どうやら名家のお嬢様らしいけど、ここではそんなものは関係ないのに。きつと集団生活の経験が無いんだろう。でも、これで彼女は女子の大半を敵に回したと言っても過言ではない。もしかしたら、自分で気付いて反省して謝罪するかもしれないけど、この失点を挽回するのは難しいだろう。

イギリスの代表候補生の選定基準を聞いてみたかったけど、これ以上話を続けると本当に不味い事態になりそうだったので、皆でイギリス出身の子をひとしきり慰めた後、解散となった。

それにしては、この怒りを誰にぶつけねばいいのだから？

初日2（前書き）

長い文が書けないので、短いのを細々と投稿させてもらおうと思います。

読みにくくてすみません。

初日2

どこに怒りのやり場を向ければいいのだろうか、悶々としながら自室へと向かう。

校内唯一の男子生徒の存在は良い話のタネになっているのか、結構仲良しグループで駄弁っている子が多い。入学初日から部屋に籠って勉強する気にもなれないだろう。とはいえ、さすがにずっとおしゃべりしていると翌日の授業に響くので、皆部屋に戻り始めている。まだ部活も始まっていないし、一年生の殆どが寮にいたようだ。大抵の子の顔が引きつって見えるのは気のせいじゃないだろう。そして、その中に話題のセシリア嬢の姿は無い。彼女は寮に入った時から、大体寮に居る時は部屋で一人で寛いでいるという噂だから、今日も部屋にいるだろう。もし、部屋から出ていれば自分の置かれている立場に気付けたかもしれないのに。だから、女同士の付き合いは大切なのだ。

部屋に向かう途中、なんだか物騒な音が響いてきた。どうやらかなりアグレッシブな喧嘩が起っているらしい。可哀相にルームメイト同士の相性が最悪だったのだろう。周りにも迷惑だろうから、もしかしたらまた部屋替えとかあるかもしれない。できれば私にはとばっちりが来ませんように。

別に立ち聞きする趣味なんてないので足早に通り過ぎようとした時。

私は人間の腕力の凄さを見た。

IS学園の寮は、ちょっととしたホテル並みに設備が整っている。

もし地元の友達が私の部屋を見たら讚嘆の声をあげるだろう。そして、勿論ドアだってしつかりしたつくりだ。寮の立地からして不審者が入るなんて事は無い気がするけど、防犯もばっちりしている。これは、欧米出身の学生達の感性に合わせているのかもしれない。

その、しつかりとしたドアが、今、私の、目の前で。

ふっとんだ。

なんとも非現実的な光景だ。

中から飛び出してきたのは、今最もホットな話題の男子生徒と、竹刀を振りまわすポニーテールの女子。これが往来だったら迷わず通報している。だけど、このとき私は

(ドアって竹刀でぶっこわせるんだあ)

現実逃避に走っていた。うん、誰だっぺこうなると思うよ？

むしろ腰を抜かさなかっただけ凄いなと思う。

正気に戻ったのは、親切な誰かが頬に絆創膏を貼ってくれた時だ。どうやら破片で切れたらしい。これだけの傷で済んで良かったと言っべきか？

その場は騒ぎを聞きつけてやってきた寮長の織斑先生の一喝で静かになって、皆脱兎のごとく自室に戻ったけど。

私、あのポニテの子に謝ってもらってないんだけど。

まあ、彼女も興奮していたみたいだし、すぐに強制的にお開きになったし、しょうがないだろう。それにしても、なんか密度が濃すぎる一日だったと思う。

父さん、母さん、勉強をさぼってごめんなさい。だけど、今の状態じゃとても勉強に身が入りません。

明日の朝、早起きして予習をすることにして早々に就寝することにした。全部見ていたルームメイトが優しくしてくれて心に染みだ。今度一緒にお風呂に行った時、フルーツ牛乳を御馳走しようと思う。

翌朝、あのポニテの子が1組の篠ノ乃さんだと知った。

自分を3組にしてくれた先生に最大の感謝を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3493ba/>

IS～ある平凡な女生徒の話～

2012年1月9日02時48分発行